

提案 1

新聞記事を読んで投書をしよう

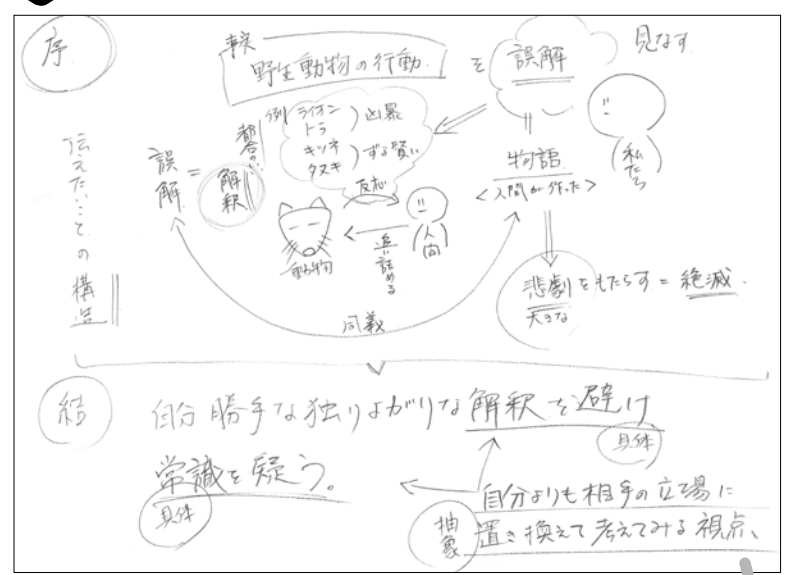
群馬県藤岡市立北中学校教諭 坂爪新太郎

教材分析編 図式化による分析↓ものの方・考え方を活用した表現活動を設定

「分析の観点」①筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目して、主張を捉える。  
②筆者のものの方や考え方を踏まえて、人間、社会、自然などについて自分の考えをもつ。

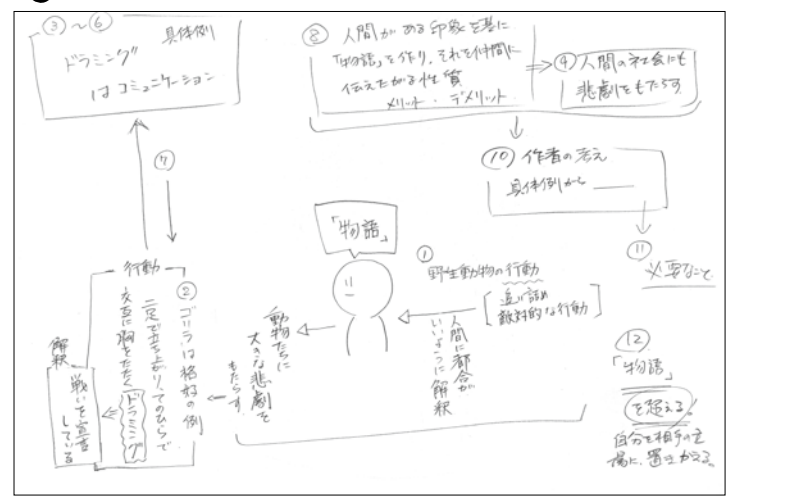
坂爪先生の教材分析ノートを公開！

1 文章の論の進め方を把握する



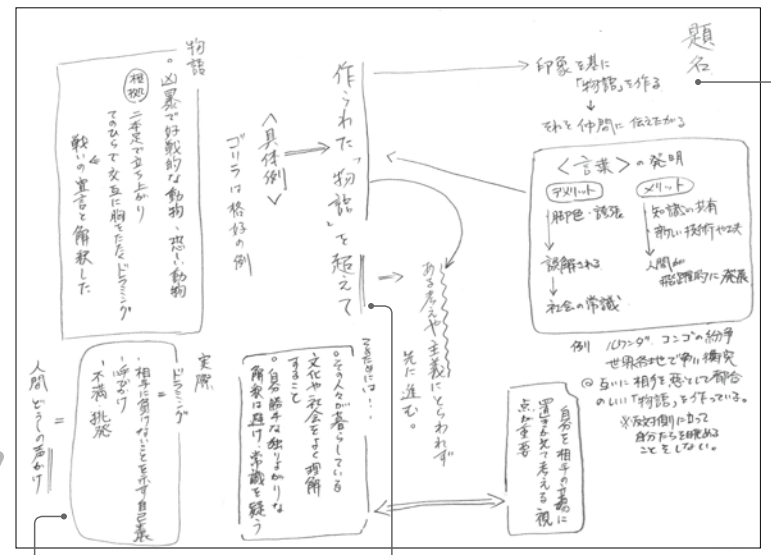
序論に書かれた話題提示を読み取る。特に、提起されている問題点を把握する。文章の中で例としているゴリラの他に、ライオンやトラ、キツネやタヌキなど他の動物について、生徒に印象を語らせてもおもしろい。さらに、結論で述べられている筆者の主張を押さえ、問題点との関係を見いだすことで、論の進め方の大体を把握する。

2 文章の構造やキーワードを捉える



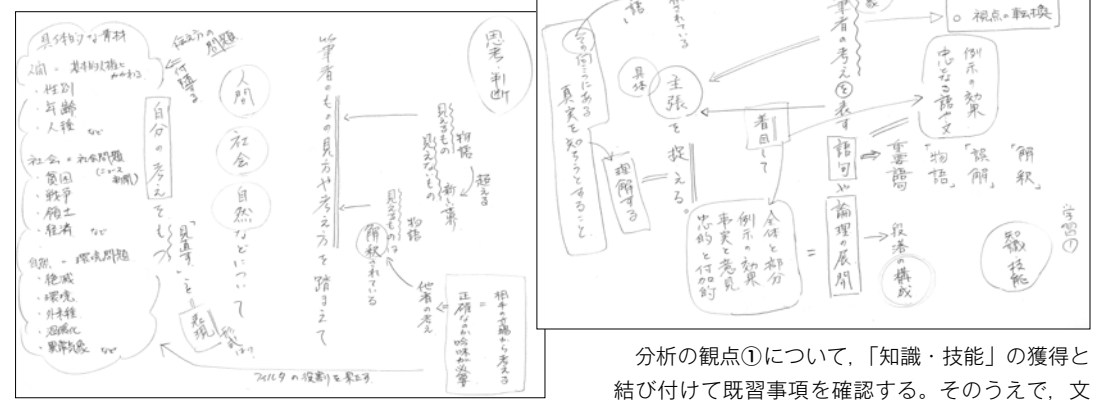
文章全体の構造を「序論・本論・結論」の三部構成に当てはめて把握する。その際、段落や段落のまとまりごとに中心となる語句や文を取り上げ、内容の大体を捉える。

3 生徒がつかずきそうな点を整理する



生徒には、題名を意識した読み取りをさせる。その際、第8・9段落の「人間のもつ言葉の特性とその功罪」について述べた部分は深く掘り下げず、知識として理解させる程度にとどめたい。  
ルワンダやコンゴの内戦以外の歴史上の出来事にも視野を広げ、社会科と関連づけながら指導するのもよい。それを通して、筆者の主張である「自分を相手の立場に置き換えて考えてみる」ことの価値を再認識させることができるのではと思う。

4 目標に照らして、学習活動を検討する



分析の観点②について、「思考力・判断力」の育成と結び付けて、文章中での筆者の立場を理解させるうえで重要な言葉を書き出す。また、この学習で身につけた思考力・判断力の活用場面を想定して、表現活動を設定する手がかりとする。

# 1 指導計画 (全六時間)

## ■目標

- 興味のある新聞記事を取り上げ、それに対する自分の考えをまとめる。
- 「作られた『物語』を超えて」を読み、「物語」「超えて」の文脈上の意味や例示の効果に着目し、筆者の主張を捉える。
- 筆者が、具体例を通して伝えようとしている、真実を知るための見方・考え方を読み取る。

## ■展開

主な言語活動として「新聞記事に対する自分の意見をまとめ、投書の文章を書く」ことを設定する。本教材から学んだ、もの見方・考え方を活用しながら新聞を批判的に読んだり、それをもとに話し合ったりしながら考えを深める。

### 第一次 (二時間)

- ・提示された複数の新聞の中から、自分の興味・関心に合った記事を選ぶ。
- ・記事を読み、考えたことや気づいたこと、疑問に思ったことなどをグループで紹介し合う。

- ・記事を切り抜いてワークシートに貼り付け、グループ内で紹介したことを書き込む(ワークシート例参照)。

### 第二次 (二時間)

- ・文章の構成(序論・本論・結論)を確認し、結論から筆者の主張を見つける。
- ・「物語」の文脈上の意味を具体例を手がかりにして読み取る。
- ・筆者の考える「言葉の発明」と「物語」との関連について理解する。

### 第三次 (二時間)

- ・題名の「超えて」の文脈上の意味を、筆者の主張から捉える。

### 第四次 (二時間)

- ・第一次とは別の立場から記事を読み、自分の考えをワークシートにまとめ直し、グループで話し合う。
- ・まとめた内容や話し合っていた意見を参考に、記事への投書を書く。

師のねらいに合わせて記事を精選して提示するとよい。そこから、自分の興味・関心に沿ったものを選ばせるようにする。  
ワークシートには、「記事の内容」「気づいたこと・考えたこと」「疑問に思ったこと」などの観点を示してまとめさせる。特に、「疑問に思ったこと」は、生徒が新聞に投書をする動機にもなる。「どうして『なぜ』などの言葉をきっかけにしてまとめさせるようにする。

## 2 重要語句をもとに、筆者の主張を捉える

本教材の題名には、筆者の伝えたいことが端的に表された「物語」「超えて」という語句が使われている。この二つの語句の文脈上の意味を捉えることは、そのまま文章の正確な理解へとつながっていく。序論と結論の内容から、これらは次のような意味として捉えることができる。

### 「物語」

人間の自分勝手な解釈によって作られ、時に、時間とともに社会常識となってしまうもの。

### 「超えて」

自分勝手な独りよがりな解釈を避け、常識を疑つこと。

生徒たちは、これらの意味について、文章全体を通してなんとなく感じ取ってはい

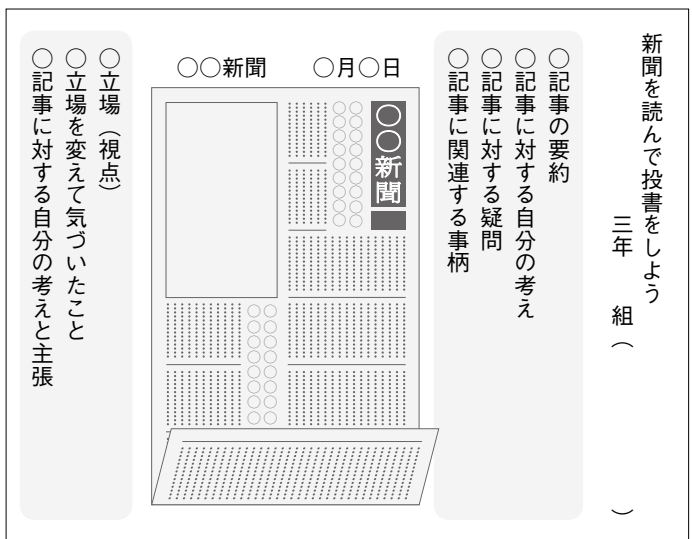
るものの、語句のもつ背景も含めて明確に理解できているとはかぎらない。そこで、語句と具体例とを関係づけながら、その意味を自分の言葉で互いに説明し合う学習活動をとり入れるようにする。例えば「物語」については、序論の「かつてライオンやトラを凶暴な動物、キツネやタヌキをずる賢い動物と見なしていた」という叙述から、その動物たちに対して人間が抱くイメージが「自分勝手な独りよがりな解釈」によるものだと言明することなどが考えられる。

## 3 新聞記事に対する投書を書く

筆者の主張である「自分を相手の立場に置き換えて」という見方・考え方によって記事を再度読み直したときに、新たな発見をすることが期待できる。その発見を投書としてまとめるために、次のような手順を踏まえる。

### ① 本教材を学習する前にワークシートにまとめた内容は、どのような立場から書かれているのかを考えさせる。

② 別の立場に視点を置き換えて読み直し、気づいたこと、考えたこと、想像できることをまとめる。



▲新聞記事をまとめるワークシート例

## 2 指導の工夫・学習の実際

### ① 記事に対する自分の考えをまとめる

生徒たちは、日常的に多くのニュースを見聞きしているが、その真偽を確かめることなく受け取ってしまう場合が多い。そこで、一つの事柄にもさまざまな見方・考え方があふれることに気づけるよう、複数の新聞社の新聞を用意する。一般紙の文化面や中高生向けの新聞などから、生徒の実態や教

③ 自分が記事をどのように理解しているのか、どの立場から意見を書いているのかを明確にして書かせる。

メディア・リテラシーという観点からも、この学習活動を通して、生徒の、出来事の内容を俯瞰するような視点を養うことを大切にしたい。

## 3 おわりに

中学校三年生の生徒にとっては、説明的な文章を本格的に学習する義務教育最後の機会となる。だからこそ、文章の内容を理解するだけで終わらせるのはもったいない。

ものの見方・考え方を得ることは、私たちの世界を大きく変化させるきっかけを得ることもある。生徒には、本教材から学んだ「常識を疑う」「自分を相手の立場に置き換えて考える」という見方・考え方を新聞の投書に生かすことで、実社会とつながり、自らの世界観を広げてもらいたい。そして、そこに他者からの評価が得られたとき、これが社会で生きて働く力であることと実感を得て理解することができるようになると考える。

生徒たちにとって、国語科の学習がそのまま「生きる力」となることを期待する。